

02/05/28

2002 年 5 月 27 日  
日本テレビ会長社長定例記者会見 要旨

**1 . 平成 13 年度決算の評価と今期の見通し**

記者：13年度決算の評価と今期の見通しについて、会長のほうから。

氏家齊一郎 CEO 会長：

前期の前半、つまり去年の4月から9月までは、半年としては記録的な伸びだった訳ですよね。ところが、それから急速に落ち始めて、これまた半期の落ちにしては記録的な落ちになったんですよね。

その結果、トータルとしては、対前年比わずかながら減収ということになったんですが、前半で稼いだってことがあったものですから、経常利益なんかは、それほど落ちなかつたわけです。

今期の見通しですが、デジタル化投資というものが大きいと思います。いよいよ、来年の12月までには、波を出さないといけないでしょ。アナ - アナ変換もどういうふうになるか。最大の影響が出てくるのは、北関東ですね。これをどういうふうに解決していくか。構造的な支出ですよね、それがかなり増えることがあるということと、それに平行して、今後の経済の先の見通しが伸びていない。

政府は底入れしたとか言っているんですが、私は、必ずしもそう思っていません。今までの経験で言うと、広告というのは、景気の先行指標になっている。先行指標としての去年の後半の広告状況を見ると、必ずしも今後の状況は楽観できないのかなという気がします。

記者：番組制作費の縮小という問題が、各局とも悩みどころだと思うんですけど、日テレさんの場合はその点どういうふうに見てています？

氏家会長：

我々は、いつも商品価値を上げなければいけないと言っている。商品の質を対外的に示すのは、テレビの場合、いい悪いは別として、レーティングしかない。商品価値を下げちゃいけない、いかに苦しくなっても。商品価値を下げるってことは、そこで企業の信用力を落とすってことですからね。ということから、今度の予算も我々のところは切ってませんよ。増やしてはいないかもしれませんけどね、それが基本的な態度だと思いますね。

萩原敏雄 COO 社長：

番組のクオリティーを落とす気は、毛頭ありません。ただ、そうは言っても、いわゆる自然増というのがありますから、そのまま放っておけばかなりのプラスになってしまいます。だから、実際にはプラスですが、その幅をなるべく大きくしないための、編成の構造上の問題というのは考えて行かなきゃいけない。

だから、今回「レツツ」の変わりに「ザ！情報ツウ」をいれて、そこには峰竜太さんと麻木久仁子さんという2人のキャスターを投入した。その代わり、「ホンの昼飯前」の枠は再放送枠にしたという、編成上の工夫というのは、当然、考えていますが、ひとつひとつの番組のクオリティーは落とす気はない。必要ならば、現在以上に戦略枠で努力することがあります。

## 2 . G 戦 視聴率分析

記者：次はジャイアンツ戦の視聴率分析ということで。

萩原社長：

昨年に比べまして、私共の放送は22試合経過した段階で、18.8%ということで、昨年より1.6%のプラス。他局のナイターは16.3%ということで、昨年比でプラス0.4%ということです。全局のナイター平均では17.5%ということで、0.9%のプラスというのが、現状でございます。

昨年の5月と比較しますと、昨年は15.0%で、もう5月には4月を大幅に下回るダウンだったんですが、今回はむしろ5月の全局平均が17.6%ですから4月より上がっているという状況でございました。

まあ、最悪の状態というのは、もちろん覚悟はしていた訳ですけど、そういうことで言うと現状はますますだなという感じですね。

巨人戦ナイター・ターゲット別視聴率ですが、各世代別、男女別のいわゆる個人視聴率の部分で、すべて日本テレビのナイターは、昨年を上回っています。特に強調したいのは、少なくとも現在のデータを見る限りにおいては、私共のナイターは、C、T、それからM1、M2、F1、F2と言った世代が昨年の全局平均の各世代よりも、大幅に上回っているということでございます。まあこれは、開幕前に、監督が原さんになったんでM2世代をなんとか取り込みたいということを言っていた訳ですが、私共の巨人戦のM2の数字は8.3%でございます。昨年が6.9%でございますから、ここも明らかにアップしているということです。はっきり言うとC(子供)・T(10代)この辺も、私どものナイターではかな

り大幅にアップしている訳でございます。それから、F1も昨年3.5%だったものが、4.1%という具合に上がっております。他局のナイターですと、M2、F1、F2あたりは昨年を下回っているということでございます。

これは、いろいろ原因は考えられるんですが、一番わかりやすく言えば、私共の19時台、20時台の番組が、レギュラー番組が強いということがありまして、そこに私共の巨人戦が組まれたときも各世代、各ターゲットが裏番組に流れず、こういう結果を生んでいるのかもしれません。

あるいは、私共のナイターで、これは賛否両論でございますけれども、少し若者向きに、画面構成などを、インターネット風というか、そういうつくりにして、そういうところが若い人にも共感を得ているのかなということでございます。

記者：4月～5月にかけて上がったということですが、6月はワールドカップで下がるという恐れがありますけど。

萩原社長：

ワールドカップに関しては、かなり視聴率を獲るだろうということは、覚悟しています。ただ、先週の土曜日に日本対スウェーデンがありましたよね。25.6%取っているんですね。その裏で私共が、広島・巨人戦をやりまして、実を言うとひょっとしたら10%がいいところかな、という気がしていたんですが、15.5%取っているということは、やっぱり、かなり巨人戦強いなと。特に世代別に言いますと、若い層はどうしてもサッカーに行ってます。だけども、少し上の世代になると、必ずしもサッカーじゃないということで、棲み分けが26%と15%ということになって来たからだと思います。

記者：会長にお聞きしたいんですが、今期のプロ野球をどう見てますか？

氏家会長：

心配したんだけど、一応、反転局面に入っているなという感じを受けているんですよ。それはね、原君とかが一生懸命やったというのと同時に、各球団が企業努力をしているのが大きいと思います。環境が随分変わって来て、プロ野球の当面の危機を開いて、さらに上に伸びていくチャンスになったのかなという感じがするんですね。

### 3 W杯サッカーの視聴率面、営業面への影響

記者：前回の会見にも話題になりましたが、ワールドカップ直前ということで…。

萩原社長：

ワールドカップの視聴率の点で言いますと、日本代表の試合というのは、相当の数字になると思います。NHKの日本対ベルギー、フジテレビの日本対ロシア。この2つはかなりの数字が出るだろう。ただ、NHKの日本対ベルギーの場合は、キックオフが早いんですよね。ですから、まともに来るのは20時30分キックオフというフジテレビの日本対ロシアでしょう。まあ、60%ぐらい出ても仕方がないかなと、覚悟しております。ただ、私どもは編成局長のクジ運が悪かったせいもあって（笑）日本戦は取れなかったんですが、これは結果を見ないとわからないんですね。というのはですね、フジテレビは日本戦は取ったけれども、残り2つしかないんですね、プライムタイムにやる放送が。しかも、始めの方で1試合と、最後の3位決定戦しかないです。

私は、プライムタイム、しかも20時30分キックオフの試合を4つもっておりまして、編成局長のクジ運がなんて言うか…悪運の強いところでありまして、6月11日には、カメリーン対ドイツというキーを持っているんですよ。いまや、カメリーンというのは大変なものです。カメリーン対ドイツは静岡でやるんですね、それを引いたんですね。これは、もしかしたら結構行くかもしれませんよ。それからテレビ朝日さんがやる、チュニジア対日本、デーゲームなんですね、15時ごろキックオフなんですよ。そのリピート放映権を持っているんですね。ということは、ゴールデンアワーでリピートできるんです。もし、日本が勝てば、このゴールデンアワーの日本対チュニジアっていうのは結構いけると思いますね。

というようなことを考えると、必ずしもトータルで言って…もちろん日本対ロシアがありますから、ワールドカップ全体としては、1番はフジさんが取るでしょう。じゃ、うちが、そんなにものすごいダメージを受けるかというと、長い目で見れば一過性のものというくらいに考えていいんじゃないかなというのが、正直なところです。だからこのへんは、わかりませんが。日本でやる世界の強豪国が出る試合というのは、結構取るんじゃないかなという気がしています。ただ、影響をどのくらい受けるかというのが、必ずしも全部がサッカー見る訳ではありませんから、うちの19時台のバラエティーも結構強いですし、巨人戦はかなり避けて編成されてますから、それほど大きな影響があるかなという感じはします。その週は週間視聴率四冠王では負けるでしょうね。あるいは月間視聴率四冠王も、5月までは46ヶ月連続で取りますけど、47ヶ月目は常識的にはムリかなと、これは一過性ですから、そんなに気にはしていません。

それから営業面で言うとですね、この期間、5月もすでに影響が出てますが、5-6月のスポットにはかなり影響が出ています。これは、ひとつはワールドカッ

プに広告費を結構、投入したクライアントがあるということと。もうひとつはワールドカップの期間中に、スポットの線を引いてもですね、あまり宣伝効果がないんじゃないかなと、抑えてるんじゃないかなという…これは予測ですよ、ということもあって、5・6月に関しては、4月に比べても少し落ち気味ですね。まあ、そういうことから考えると、W杯も終れば、抑えてたスポットの方へも回って来るんじゃないかなという期待はあります。ただしだすね、全部の営業収入のことを考えると、ワールドカップがあるということで、こちらの方もかなりの収入が見込めるわけですから、スポットには非常に大きな影響が出てますけれども、タイムセールスでのワールドカップの収入ということを考えると、スポットのダメージがそのままダメージになることはないですから。まあ、まるまるスポットの減った分が、マイナスになる訳ではありません。

#### 4 G+など、CS日本の加入状況と今後の見通し

記者：CS日本ですけれども、これも毎月お聞きしていると思うのですが、現在の状況はいかがですか。

萩原社長：

本来、契約者数ですとかそういったものは、プラットワンの方で発表があると思います。私共のほうは、あくまで番供をやっているということで、大雑把なことしか申し上げられないんですけども、チューナーとか受像機の普及の問題から考えても、そう、どんどん、伸びてるというものではありませんが、着実に大体、1週間で800～900くらいのプラスになっています。現在、チューナー受信機の販売の台数がですね、だいたい3万強、3万5000くらいですか、それくらいの台数なんですね、それに比べて加入占拠率が24%なんですね。24%というのはかなり高い数字です。このまま行きますと、多分9月いっぱいには、34万くらいのチューナー・受像機が出回るだろうと。34万出たとして、そのうちの24%が契約をしてくれると仮に考えますとね、大体、8万強の契約が取れるのかなと。そういうペースであるというところですね。

#### 5 メディア規制2法案への対応と読売修正試案について

記者：メディア規制法案、3法だったのが2法になって、今、個人情報のほうは審議がストップしてますけれども。まず、読売新聞が修正試案を出しました。修

正試案の中身自体について、会長はどのように評価するか、まずその1点をお願いします。

氏家会長：

個人的評価というはあるんだけどね、この問題非常に微妙だからね、民放連としてこたえますとね、民放連トータルとしての意志はとにかく、いわゆるメディア規制3法、というか、メディア弾圧3法のようなものは、とにかく、個人情報保護とか人権擁護とかって、それぞれには非常に必要性があるものもあるんだけど、今の形はメディア規制になっているから、出直して来いというのが基本ですかね。

記者：読売試案に対しては内容以外にも、主張が急に変ったとか、新聞社の都合だけを考えている修正案とか、新聞協会と矛盾しているというような批判が出ていたりしまね。客観的立場というのは、難しいのかもしれません、そういう波紋を呼んでいることについては何かありますか？

氏家会長：

これは、新聞社の立場ですから、私が放送の立場から論評するのは、今の状況では適当じゃないと思います。

記者：法案は廃案が、望ましいということですか。

氏家会長：

それが基本的に民放連が考えていることです。これは民放連としての意志なんです。

記者：読売試案が出される前に何かお話はありましたでしょうか？

氏家会長：いや。

記者：見通しは継続だというふうに、個人情報保護法の方は見ていらっしゃいますか？

氏家会長：

まだ何とも言えないと思ってます。これからも色々な、折衝によるものと考えています。働きかけといいますかね。

記者：3法案がですね、今回、国会審議で2法案になった。もうひとつの「青少年」これについては、今度、出さなかつたわけですけど、取りあえず今回出さないのか、出すことそのものを断念したのか、このへんはどう見てますか？

氏家会長：

あの問題については、一生懸命信じておられる方が何人かいらっしゃって、その方たちがやろうとしたんだけども、自民党の内部でも、ちょっとドグマに過ぎるんじゃないかなという意見もあってね。それで、法案としては、提案を見送ったわけですからね。今後も、その度に説得して行くより、しょうがない。

記者：出さなかつたことで、もう、すべて片が付いたとは、受け止めてはいられない？

氏家会長：

片が付いたとは思っていません。しかし、あの法案自体は、とてもとてもそのままの形で出るのは無理です。

記者：読売試案は、ああいう形でひとつのメディアがあつてもいいと。

氏家会長：

あれによって、ずいぶん議論がでますから。あれによって議論が深まるケースもありうるかなという感じがしていますね。我々は国民の知る権利に奉仕している機関ですからね。それができなくなることに、我々は反対しているんです。ところがね、あまりに表現の自由とか、報道の自由とか言うのが表面に出ますと、何だマスコミは自分の自由のことばかり言っているのではないか、という間違った印象を与える恐れあるんですよね。

読売さんのような議論が起こって、そのことによって議論が深まっていくと、結果としてああいう法案で、損をし、かつ危険に曝されるのは日本の国民だってことがわかるようになるだろうと。その点は、非常にプラスの種を撒いたかと思ってますけどね。議論を深めるという意味でね。

記者：読売の試案というのは権力におもねた記事とは思われませんか？

氏家会長：

これは、別段そうではないと思います。あれは、私も読んで見ましたけど、なるほどと思わせる部分もあるんです。例えばね、僕が非常に問題にしたのはね、法

案は、主務大臣がね、報道の自由を尊重しなければならない、ということを書いてある訳ですね。しかし、読売新聞の考え方では、主務大臣は、いろいろなことがあっても、言論の自由を妨げてはいけないという文章なんだよ。禁止規定になっちゃった。さっき申し上げたように、あれもひとつの考え方、これもひとつの考え方っていうようなことで、議論が深まるっていうのは非常にいいことですからね。これから進めて行った方がいいと思いますからね。そういう意味で議論に一石を投げたという感じがしていますがね。これ、個人的な感想としてはね。

記者：週刊誌などについてはどうですか？

氏家会長：

私はね、かねがねこの席でも申し上げている通り、質の悪いマスコミであってもですね、これは、言論の自由を確保するためには、必要悪として守ってあげる必要があると思います。ただ、言論人としてウソを書くことは許されない。ウソ八百を書く週刊誌が無くはないというのは、諸君だってよくわかるだろうけど、そういうことは、規制していかなければいけないことは事実だよね。その規制のやり方は、いわゆる法律によって直接規制するよりも、損害賠償金とかで規制していく、アメリカのやりかたの方が、合理的かなと私は思っています。

## 6 武力攻撃自体法案と民間放送

記者：次も、民放連の会長としてお答えいただきたいんですけど、有事関連法案で、指定公共機関にＮＨＫは認定されていますが、民放も指定される可能性があると聞きましたが、このことについてはどうでしょうか。

氏家会長：

有事の範囲がどの程度まで、認定されているのか、概念規定が明確になっていないでしょ。明確になった段階で、議論していくなくちゃいけないのかなって感じがします。つまり、国民に大きな問題が投げかけられる時は、伝えないわけにも行かないでしようからね。ただ、一方的な軍事目的とか、そういうことに利用されるというのは、あってはならないっていう考え方方が、一方であるだろうしね。これは、やっぱり、具体的な内容の精査によって判断して行くしか、しょうがないんじゃないかなと思います。

記者：現在、政府の方からお話を？

氏家会長：まだ私の耳には入ってません。

記者：有事関連法案自体に対する、会長ご自身の考え方というのは？

氏家会長：これもちょっと控えさせてください。

記者：民放がですね、指定公共機関になるかどうか、これからまだ、わかりませんけど、指定する際にはあらかじめ政府の方から、こういうことやってもらえないだろうか、という話があると思います。その時にこういうふうな基本姿勢で望まれるというのは？

氏家会長：

中身はよくわかりませんが、いわゆる戦争をね、煽ったりね、無益な対外干渉をするというような恐れがある場合は、とてもそれは応じられないでしょうけどね。そうじゃなくて、国民に即刻伝達する必要性がある場合は、やった方がいいだろう、やることが必要なのかなとも思いますしね。だからさっさと、申しあげたように、中身を徹底的に精査しないかぎり、正確な答えは出せない。もし、そういう話が来たら、民放連としても政府が期待しているのは何かしっかり抑え、それについて審議した上で結論を出そうと思ってます。

以上